

艦政本部長



第三部長



部員



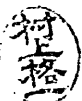
第二部長



會計課長



副官



參事官



大臣

五月廿二日

出業

次官



軍務局長

局員



經理局長



主任局員



勅令案

官房第三七七號

横濱為二
三月二八日
天海改造新設

發行室



牛丸ノ田了徳汗ス但除集金百有外
 撫其務以田ヨリ以テ工子地了ス
 以カニ九年二月

- 一 船底初板ノ上ニコイルターレシ塗抹スルコト
- 一 士官室ノ初床ヲフリクニ三人ノ及付方
- 一 士官室ニ三十人ノ衣囊拵細片及合食卓
ヲ及クルコト
- 一 本船ト于殊トノ間ニ梯橋一付設置方

朱版

康義五郎



此設之儀上申
之新設一紙
儀之少代
之由上申
上事方案重
以紙上申水

416

1179

蜀麻枯納所設之柱梅等先一。五号、年一頭茶
甲板ヲ部短所迄ハ方ニ事ニ作
前甲板一部ヲ利用シテ本共任役
地ハ、全イ板後上申程上
倉空物移致、以テ柱木ノ備付アリ
用ニテ、亦之先、舟船程上申地行
程下
右ノ通ニ申上

精進寺住持 康義五郎

1180

551

Handwritten Japanese text in cursive style, including the name 'Kawabata' and other illegible characters.

竹床枯池雨及合音響
詠老の城方葉未の同而記
入海「アハヤ」田共る 録サレ格沼一
在厚田区現之也

明治三十九年四月二日

横濱界以古方朋友

福井部真

1184

横濱賀海兵團附屬天城船体部改造新設

工事方策

一、船底銅板ヲ亜鉛板ニ張換方

水線邊約叁呎間ハ「コーペル」ヲ去リテ板割

ニ包ミ其下に亜鉛板ニ改ム

入費概算金四千五百圓

内譯 金叁千五百拾圓

材料費

内譯 金九百五拾圓

工費

二、別紙圖面之通り前甲板ヲ前部船底延長方

入費概算金千四拾五圓

内譯 金六百貳拾五圓

材料費

内譯 金四百貳拾圓

工費

毎圓

〇三

別紙圖面之通り士官室の釣床のクク急拾圓
設備方

入費概算金四拾圓

内譯 金貳拾五圓

金拾五圓

材料費
工費

四、別紙圖面ノ通り前部下甲板ノ准士官私室ト

左舷厨室室ヲ四拾人ト衣櫃格納所ト改定方

入費概算金百五拾圓

内譯 金八拾五圓
金六拾五圓

材料費
工費

五、別紙圖面ノ通り士官室之衣櫃格納所設置方

入費概算金百拾五圓

内譯 金六拾五圓

材料費

加川

金五拾圓

工費

六、別紙圖面ノ通り前部上甲板内及士官室内之食

卓設備方

入費概算金四百五拾圓

材料費

内譯金百五拾圓

工費

七、別紙圖面ノ通り本艇ト干珠トノ間ニ棧橋志圓

架設方

入費概算金八拾五圓

材料費

内譯金五拾五圓

工費

以上入費概算合計金五千九百八拾五圓

附屬費金千百多々拾七圓拾五圓

總計金七千百貳拾貳圓四拾五錢

工事日數 四拾日間

重量增加六噸八百キロ

内譯

前部上甲板

五噸三百五拾キロ

中部上甲板

七噸五百五拾キロ

太

明治三十九年三月廿六日

横須賀海軍工廠造船部長松尾鶴太郎 松尾

加川 紹

寫

横濱團一三〇年

横濱海兵團附屬山手砲台城ノ工事卒
練習用上ノ海兵團干珠砲臺留存ノ事

國所修得亦多ヲ請求

改造

砲臺ノ部

一、砲臺砲鋼板ノ並鉛板ノ改造ノ要

由海兵團干珠砲臺留存ノ事鉄鉛

ノ重氣ヲ腐蝕シ除クニ為

右要事也

明治三十九年二月十日

伊東村横濱海兵團

伊東村横濱海兵團

加川結

海軍

天城改(送)上申中鉄鉦腐蝕上ル鋼鉦
 腐蝕ノ誤リテ干珠ノ元鋼板ヲ用テテ鉦
 板改メテ故天城鋼板上腐蝕作由リ起ル
 意味ハ此訂正ニ于リ在リ也

廿九年五月

西多文技士

伝時技師殿

横海團第一。五年

(按書)

以斗於天城ヲ五年ノ水兵練習用トシテ檢査
海兵團ノ附屬セシメラシタルニ付新兵約百名ヲ
兼組スニ旨有テ如ク改進及修繕ノ要ス

改進増設及新設 祇作之類

一、前甲板ヲ前部贈所ニ移スル方

(理由) 操米ノ釣床フツク百三十アルヲ以テ新兵
式百對シ当七十ノ要ス故ニ此迄已ニ四十士官室
ニ三十釣床ヲ釣得ニ檢設備ノ要ス

二、士官室ノ釣床約三十枚釣得ノ檢設備ノ事

(理由) 尙ホ此位置ニ新兵ノ釣床三十枚ヲ釣得
ニ檢設備ノ要ス

四、前部下甲板、准士官私室トモ艦厨室、室ヲ四枚合

衣庫敷納所ノ改造ノ事

(理由) 前部之四十九、新兵ヲ配置スルニ便シク

五、士官室、衣庫敷納所ヲ設置スル

(理由) 三十名ヲ後部士官室ニ配置スルニ便シク改

造スル

六、前部上庫板内及士官室前ニ食卓ヲ設備スル

(理由) 新兵四十名ヲ前部ニ三十名ヲ士官室

ニ配置スルニ便シク設備スル

七、棧橋吉岡敷設ヲ要ス

(理由) 練習艇天城ヲ于珠ノ下係行艇場内ニ

配置スルニ便シク、且、供養ノ為ニ新設ヲ要ス

右要求スル也

昭和十九年十月

海
軍

横濱海軍工廠長今井兼三
横濱海軍工廠長今井兼三

1190

打
おーサーりーん
新設件認許
ス

洋
算

三十九年六月十日

海軍大臣

旅
長官長友
ア

海軍省

六月五日

第三部長

海軍省 第六〇號 一七五ノ五

第三十號外三隻水雷艇ホ一サ一リール
新設方ノ義上申

第三十號外三隻水雷艇ホ一サ一リール新設方別
紙一七水第一三四號ハ寫ノ通リ第十七艇隊司令
リ請求有之檢査候處實際必要ト認メ候
ニ付別紙方案ノ通リ施行致度候條着手方電
報ヲ以テ御認許相成度此段上申候也

明治三十九年六月二日

海軍省海軍工作部長小橋篤



海軍大臣齋藤實殿

官房第二二三二號

海軍

Vertical stamps and seals on the right margin, including '海軍省' and '六月二日'.

6/2

400

1193

七水ノシヨ神ノ

水雷艇ノミヤチノミヤチ神ノミヤチノミヤチノミヤチノ

加添部ヲ設キテモ、度詰ル

一、水雷艇ノミヤチノミヤチノミヤチノミヤチノ

理由、較劣、船中、水雷艇ノミヤチノミヤチノミヤチノ

果シテ要スル場合、多シトス、故ニ各シテ、水雷艇ノ

ミヤチノミヤチノミヤチノミヤチノミヤチノミヤチノ

ルニ、本艇隊ニ、未ニ、談、備、付、ケ、ナ、リ、頗、ル、不、便、シ、キ、事、

前記理由ノ由リ、ミヤチノミヤチノミヤチノミヤチノ

諸ノ事

明治三十二年四月廿九日

2
14
敵
+
10
2

十七
飛
隊
司
有
馬
經
位

1195

第三十一號 第三十二號 第三十三號 及 第三十六號 水雷艇へ

ホーサーリール各艦個宛新設工事方策、工事日数、重量

増減及入費概算調書

但艦隻又分

一、ホーサーリール各艦個新設

工事方策

後部上甲板、上船尾端より、參米突五百密所（但し船尾糧食庫

出入口全庫、通風管の間）ニ別紙圖面ノ通り施行

工事日数 十五日間

重量 拾五ト口増

入費概算

工費金
材料費金

貳拾四
七圓五拾錢

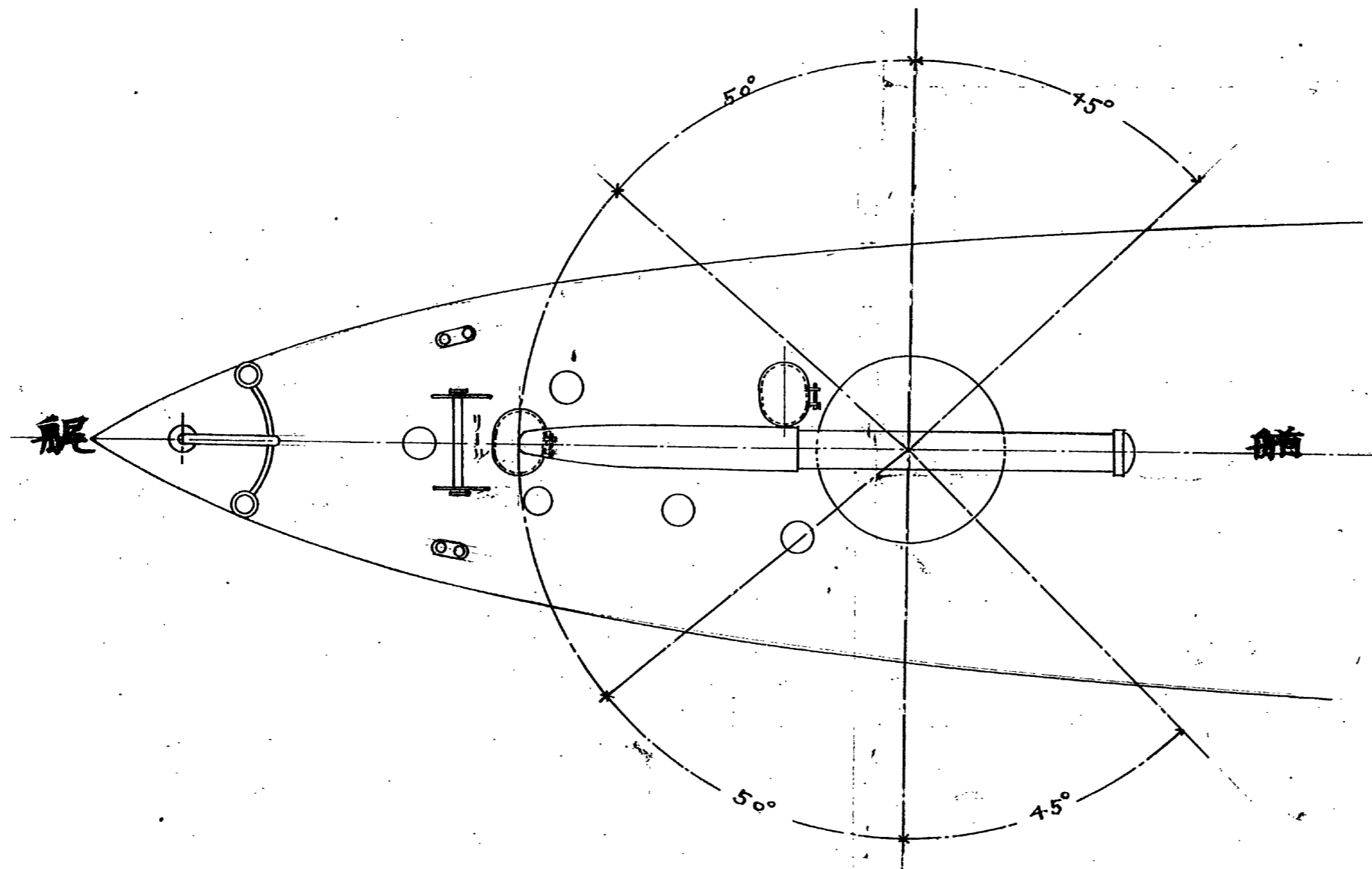
右之通り施行多要スルモノト認ム

明治三十九年六月 日

旅順口海軍工作廠工作長海軍造船中監甲斐鐵三郎

印

1197



第三十三号水雷艇リール新設位置之圖

リール重量十五キロ



總務本部長



第三部長



第一部長



部員



會計課長



副官



參事官

六五

大臣

廿九年六月十九日 官

次官



軍務局長



局員



經理局長



主任局員



課長



指令按

舞工第第七號ノ一七六軍艦阿蘇機關

官房第二三三三二號

海軍

部新設方ノ件認許ス

且本年三月官房第七九六号ノ三訓令範圍内

ニ於テ工事施行スル義ト心得ベシ

明治三十九年六月廿三日

機關長

機關長

海軍大臣

海

軍

舞工部 七 補ノ一七六

六十五

軍艦阿蘇機關部新設方之義上申

軍艦阿蘇機關部新設方必要有之矣奈此際復舊
修理ノ序ヲ以テ施行致度別紙工事理由並ニ方案書
及圖面相添提出矣間御認許相成度此段上申矣也

明治三十九年六月九日

海軍大臣 齋藤實殿

海軍大臣 齋藤實殿

官房第三三三二號

機關長

軍艦阿蘇新設工事理由書
方案書

今

汽缶室及放射器新設
A号

主風機及放射器新設
B号

汽鐘室及吸込管新設
C号

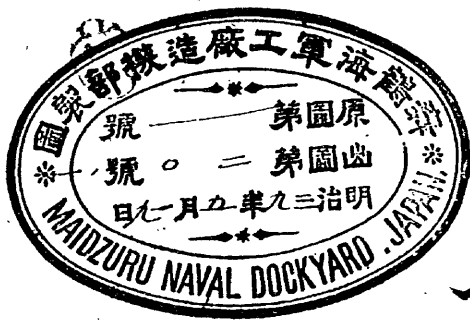
今今今

軍艦阿蘇新設工事理由書
花三 方安書

工廠長

造機部長

高木



1203

軍艦阿蘇新設工事理由並方素書

(一) 反放射器新設

理由

目下汽缶室各「ストークホル」ト「壹回充揚反機備付アルモ
上甲板」於テ之ヲ取扱ハズルカテアルヲ以テ多数ノ兵員ヲ
要シ且戦闘中非常不侵アルニ付キ反放射器新設ヲ要ス
前走室「壹回其他」或何宛合計七回「一式」アスエセ
クター」ヲ据付后走室后部「アル者」外ハ瓦」石炭庫内
ヲ通テ舷外ニ出シ「装置」ス放射機用唧筒「叁台」ヲ
据付「瓦古」唧筒ヲ以テ或何若クハ叁回「放射機」ニ使
用スル者トス（A 早用回素照）

從來備付揚反機各汽缶室「瓦回充」ヲ殘シ他「取
除」シ「新設」スベキ反放射器及全用唧筒重要「法」在「如」シ

反放射器

「一式」六吋エセシタ

七個

全用唧筒

直立復働式

叁台

汽筒直登

拾貳吋

衝

程

拾吋

唧筒直登

八吋

(二) 汽缸主機強圧油装置新設

理由

運轉中軸承等ニ生ズル「患」ヲ除キ以テ汽機ノ効率ヲ増進セ
「メン」ガ為メ本装置ノ新設ヲ要ス

方案 從來油藝其儘利用并力ニ水ヲ付シ油内ニ混合セル水
排出後ノ水ノ日附内通 各滑動部 注油スル者トス

(三)モリナリ一式田縣計新設

理由 主板回轉數ヲ機槽及司令塔通知スル爲メ新設ヲ要ス

方案 可舷至機回舷軸端ニ齒輪裝置併し可舷機室內ニ各

齒仲完前部機槽及司令塔内ニ兩舷ニ付テ則仲完合

計八個ノモリナリ一式田縣計新設スル者トス

(四)冬季機室及可舷機室內ニ清水唧筒吸入管ニ交通管新設

理由 自下可舷機室內清水唧筒ハ單ニ該唧筒格付流走室底部

海

ニアル斯水亟ト可舷機室空間ニ以藥庫ノ底部ニアル斯水亟

ノ片舷ヨリ吸入シ得ルモニテ該斯水亟ヲ連絡スヘキ設

備ナキハ故ニ要ス

方案 可舷水唧筒吸入管ヲ連結スル管一本ヲ増設シ何ヤ斯

水亟ヨリモ吸入シ得ルノ様ニ要ス者トス (C)号回面参照

竣工期日工費材料費元テ前同上申 豫算範圍内ニ於テ

施行シ得ル者トス

艦政本部長

伊

第三部長

會

第四部長

會

部員

會

會計課長

會

會

所
六五九

副官

會

會

參事官

發

七
三
日

大臣

二十九日六月廿八日起案

軍務局長

會

局員

會

會

次官

會

經理局長

會

主任局員

會

會

清水

指令按

橫鎮第一二號

官房第三四八二號
和泉機關

海軍

1206

會

會

海軍

部特定修理著手件認許ス

明治三十九年

七月二日

1207



第四部長

領第一二〇號、一七二

和泉機關部特定修理着手致度儀
上申

明治三十八年廢軍事費造船及修理費
支弁係此特定修理及雜船製造費三十
部員年三月官房第六九號訓令「基キ軍艦
和泉機關部大修理ノ儀」工事着手スルノ處
本艦任務、都合等依リ着手致難カリ
レニ付此際該工事着手致度候本決認
許相成度此段上申候也

明治三十九年六月廿六日

横須賀鎮守府司令長官上村彦之丞

官房第三四八號



東京三浦印行

六之五

海軍大臣 齋藤實殿

洋

年

艦政本部長



第三部長



第二部長



第二部長



會計課長

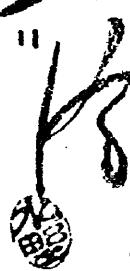


副官



參事官

發行



大臣

自 月 日 起 案

次官



軍務局長



局長



經理局長

注

局長



坊合案

(發行)

七

月

日

号

第

号

第

号

海軍省

Handwritten signature

七

月



1210

口落船舫時係トシ定全修理抑リ、件
徳存ス

明治九年七月廿一日
世、
方、
世、

明治九年七月廿一日
世、
方、
世、

官房第二九二五號

(書向)

我列以愛航定全修理地、
自了、
方、
世、
方、
世、

明治九年七月廿一日
世、
方、
世、

經政本録

第三

電文譯

五月廿七日

旅蹟七友

大尾宛

瑞穂口号泥漫取旅順口港務部係
リ完全修繕共職工共一六〇〇名材料
費一〇〇〇名并支出共一〇〇名内
我共一〇〇名内共一〇〇名

27.0000

海軍
三

1212

電 報 送 達 紙

局 着		局 發				名氏所居人信受	
取扱者	受信	午後	午前	時	分	字	第 報 局 號 日 月
		時	分	分	分		
							定 指
シ、 リット コウヒハハダ ニテハイブ ツブ							事 記
							意 注
							他人へ宛タル電報ノ配達ヲ受ケタルモノハ此由ヲ符 箋シ直チニ此レヲ配達シタル電信局所へ返戻スベシ 決シテ其受取本人へ直送シ又ハ手渡シスベカラズ
							名氏所居人信發

乙

電報
送達
紙

1214

備
候

艦政本部長



第三部長



部員



會計課長



製圖室

室長

六五

1215

副官



參事官

發行
七月二日

大臣

三月十九日六月廿八日起案

次官



軍務局長



局長



經理局長



局長



指令案

舞正才七号、一九一軍艦見念山前橋改造、

官房第二四八八號三

一母
一頁

注 目

件認許ノ但費用ハ臨時事件費造及

修理費支弁トス

昭和三年九月二日

1216

軍政本部

六月廿九日進達

舞工第

七
號
一九一



海軍



海軍

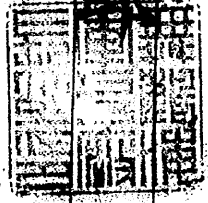
第三部長

軍艦見島船体部改造方之義

軍艦見島船体部改造方請求有之矣處必要
ト認メ候條御認許相成度別紙關係書類相
添、此段上申候也

明治三十九年六月二十三日

舞鶴海軍工廠長中溝徳太郎



海軍大臣齋藤 實殿

官房第二四八號

工廠長

造船部長

福田

軍艦見島前橋改造方案

方案前橋ノ「トツ」及ヒ同昇降筒ヲ取り去リ

司令塔内ニ補強ヲ行ヒ又「ステール」ヲ増ス

コト圖面ノ如クス

理由重量及受彈面積ヲ減スルノ利アリ

工費 五百圓

材料費 貳百五拾圓

工事日 参拾日

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--


漁
軍

王急


艦政本部長 

第四部長 

部員 

第三部長 


會計課長 

副官 

參事官 

發行


廿九年八月廿七日起案


八井 


大臣

次官 

軍務局長 

局員 

經理局長 

主任局員 

陸 

電信指令案

軍艦明石機關部特定修理着手ノ件

海軍

認許ス

明治三十九年八月廿九日

海軍

1221

艦政本部

第四部

第三部長

大倉

電文譯、直譯、
譯家付書

本年三月廿九日、東京現況

明石特設無線電信局、
電報局、電報局、電報局

福井、
福井、福井

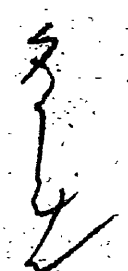
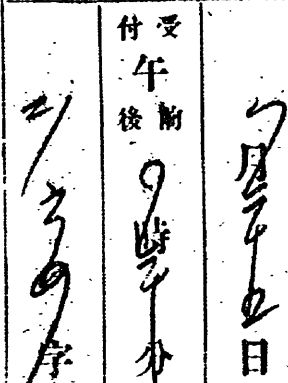
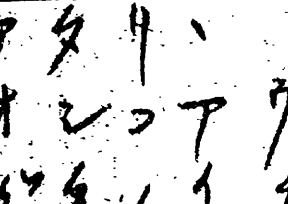
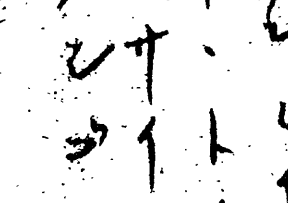
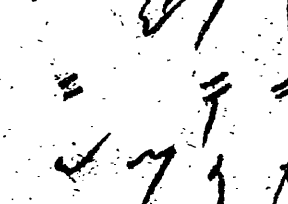
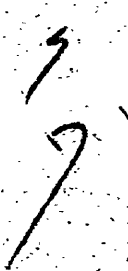
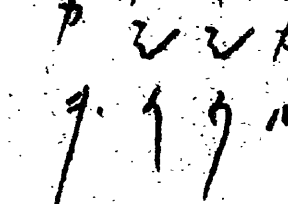


827

1222

(教 規 規)

電 報 送 達 紙

局 着		局 發				名 氏 所 居 人 信 受	
取 扱 者	受 信 後	受 午 前	付 午 後	第	報	<div style="font-size: 2em; font-family: cursive;">  </div>	
				號	局		
		<div style="font-size: 1.5em; font-family: cursive;">  </div>					
		<div style="font-size: 1.5em; font-family: cursive;">  </div>				指 定	
		<div style="font-size: 1.5em; font-family: cursive;">  </div>				事 記	
		<div style="font-size: 1.5em; font-family: cursive;">  </div>				<div style="font-size: 2em; font-family: cursive;">  </div>	
		<div style="font-size: 1.5em; font-family: cursive;">  </div>					

注 意
 他人へ宛タル電報ノ配達ヲ受ケタルモハハ此由ヲ符
 號シ直ニ此レヲ配達シタル電信局所へ返戻スベシ
 決シテ受取本人へ直送シ又ハ手渡シスベカラズ

1223

艦政本部長



第四部長



部員



第三部長



會計課長



副官



參事官

九廿



大臣

廿九年六月廿九日 密

軍務局長



局員



次官



經理局長



主任局員



指令按

橫廠第... 二號ノ二 和丸汽罐新製

官第... 二號ノ二

海員

628

55

1224

入換ノ件認許ス

但廿九年度軍事費造船及修理費配賦豫算
内ヲ以テ支弁スベシ

明治廿九年
九月十一日

三
頁

1225

海軍省

第四部長

係

六月廿七

大和丸 入換ノ儀ニ付上申

一 横須賀海軍港務部所屬大和丸 入換方

右 新製入換方別紙横港第四ノ號寫ノ通リ港務部

長 又 請求有之調査候處全休老衰危除ノ處有

之候條新規製造ノ上入換方御認許相成度工率

方案並入費概算相添ハ此設上申候也

明治三十九年六月二十一日

横須賀海軍工廠長伊東義五郎

伊東義五郎印

海軍大臣齋藤實殿

横港第二 三〇四

參謀長 副官 事務長

副官

事務長

豫算

海軍省 第六八

東京三浦御

177/140

1226

官房第二五二號

海軍

寫

横隄第四八號

所屬船大和丸罐入替請求

一罐 寺個

理由一般ニ衰弱シ來ル度々修理ヲ施行セシト
雖モ戰時中頻繁ナル使用ニ供シテ
為メ諸部漏洩シ來ル最早使用ニ不
堪ニ付検査シ入替ヲ要ス

右請求也

明治三十九年一月二十六日

梨羽横隄賀海軍港務部長

伊東横隄賀海軍工廠長殿

海軍

大和丸汽罐入換工事方按

一 大和丸汽罐新製入換

但シ罐ノ形状及寸法等凡ラ從來ノ如ク通

ニ事費概算金六千七百拾五圓四拾銭

内

罐新製 工費金貳千五百圓

材料費金貳千五百圓

附屬費金九百五拾圓

日子四ヶ月

工費金参百六拾圓

材料費金参百圓

附屬費金百貳拾五圓四拾銭

罐入換

五

五

日子きヶ月

右

明治三十九年六月十五日

横濱海軍工廠造機部長黒部廣生 兼 署

艦政本部

第三部

第四部

機務部二二四ノ六

機務部二二四ノ一四一号内照会ニ對シテ機務部二二四ノ

二四ノ六ニ付テ機務部二二四ノ六ノ如ク之ニ付テ機務部

機務部二二四ノ六ノ如ク之ニ付テ機務部二二四ノ六ノ如ク

機務部二二四ノ六ノ如ク之ニ付テ機務部二二四ノ六ノ如ク

機務部二二四ノ六ノ如ク之ニ付テ機務部二二四ノ六ノ如ク

機務部二二四ノ六ノ如ク之ニ付テ機務部二二四ノ六ノ如ク

機務部二二四ノ六ノ如ク之ニ付テ機務部二二四ノ六ノ如ク

機務部二二四ノ六ノ如ク之ニ付テ機務部二二四ノ六ノ如ク

艦本第二二四

時ノ五



海軍



1230

積慶第 二 號、三四、五

船中、弟三四號、出無、合、在、中、
 大、和、丸、船、作、於、香、土、の、水、
 船、以、上、の、高、お、使、用、し、見、込、老、公、
 入、渠、上、サ、ラ、ガ、レ、バ、物、以、下、の、状、態、
 一、年、船、入、渠、期、に、お、来、着、り、い、と、付、
 船、渠、の、部、分、の、見、計、に、お、入、渠、
 船、渠、定、ま、る、案、に、照、考、を、船、渠、
 船、渠、の、通、り、を、結、果、示、す、の、通、り、
 可、及、び、お、申、上、り、を、
 二、一、四、一、號、の、也、

毎 頁



1231

明治二十九年一月十日

伊集院院長

伊集院院長

1232

海軍

陸軍
陸軍省
陸軍部

艦政本部長



第三部長



下頁

會計課長



方和丸船入取方より申、同し轉り、
此本知三回一歩及び口り、口り、口り、
及、口り、口り、口り、口り、口り、
大、口り、口り、口り、口り、口り、
之、口り、口り、口り、口り、口り、

海軍省長

艦本第二

二二四

一

一

一

(北行册)

艦政本部長



第三部長



海員

會計部長



海

軍

校 摺 合

大和丸 煙火 燈り 上 中 下 國 幸 日 皇
行 年 卯 三 日 一 ち ン ン ン 及 此 之 事 考 了 左 右
心 行 ぬ 少 少 所 以 湖 の 四 枝 ぬ 本 分 分 物
之 子 丸 年 七 月 丸

坊 之 郎 長
左 中 長
縁 付 齋

艦本第二二九
三

(北村 續)

1234

艦政本部長



第四部長



第三部長



部員



會計課長



艦本第一

四

號

横濱

海軍省

一

電

横濱分二号三の九号大和丸艦
方上申出成なる又同船去る二十七月
古船ヲ購入シ之をノ年進分年敷ヲ
之レノ二台船体ノ枯死也向テ有之哉
艦ヲ換テ去ル大ケノ價値有之哉
取調之上而意見の同致有之哉
之ノ事多ク日ハ有之哉

校印合



松水助

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

11
1

1236